

高松市立古高松小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

豊かな心を持ち、夢に向かってチャレンジし、たくましく生きる子どもの育成

【目標】

- 体を動かす楽しみを味わうことで、運動習慣を身に付けることを目指す。
- 合格証や達成賞をその都度配布し、認めることで、自己有用感を高めるとともに、目標に向かってがんばろうとする態度を育成する。
- スポーツ委員会主催の活動を工夫し、敏捷性・投力の数値が一昨年度より上回ることを目指す。

【取組み】

体育備品の充実・環境整備

ボールに恐怖心がある児童でも楽しめるようにソフトドッジボールを各クラスに配備する。また、体育学習で児童の体力や技能を伸ばせるように体育備品を充実させ、運動に親しむことができる児童を増やす。

遊びの推奨

ドッジボール、鬼遊び以外の遊びも楽しめるように、スポーツ委員会が中心となって、3密にならないような遊びを周知したり、環境を整えたりする。

表彰による意欲の向上

水泳、なわとび、持久走の取り組みにおいて、各学年団で達成目標・基準を設定し、児童のがんばりや目標達成に対して合格証や達成賞として表彰する。継続して運動に取り組もうとする意欲・態度の育成を図る。

スポーツ委員会主催の運動企画

定期的に昼休みに、体育館でスポーツ委員会が企画した運動や遊びを楽しむことができるようにする。特に、新体力テストで県平均を下回っていた俊敏性を高める運動や投運動を扱い、ゲーム化する等工夫して取り組めるようにし、俊敏性と投力の向上を図る。

【現状】

- 休み時間を楽しみにして、毎日元気に体を動かしている児童がいる反面、運動することが楽しくない・苦手であることを理由に、一週間の中で外に出て遊ぶ時間を全くもたない児童も多くいる。また、外遊びの内容のほとんどが「ドッジボール」「鬼遊び」であり、その他の遊びをしていることが少ない。また、運動する児童とそうでない児童の二極化が進んでいるとともに、遊び仲間が固定化されていることも課題である。

【本校の課題】

- 令和元年度の体力・運動能力調査、運動週間等調査の結果から、男女共に全学年の合計点が県平均を下回っている。握力、ソフトボール投げ、反復横とび、20mシャトルランの種目においては、ほとんどの学年で県平均を下回っている。(令和2年度の結果がないため、令和元年度の結果を参照している。)
- 休み時間に行う外遊びの内容のほとんどが「鬼遊び」「ドッジボール」であり、その他の遊びをしている児童が少ない。